

コロナ禍の公共施設について



そめや りおん
染谷 莉緒夢さん (牛久栄進高1年)

コロナ禍において体育館や図書館など、さまざまな公共施設が利用できなくなってしまいましたが、コロナ禍における公共施設の使い方について、これまでの状況と対策、今後の見通しと対策について具体的に教えてください。

答弁 国の「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」、そして、県の「非常事態宣言」「感染拡大市町村」などの方針に従ったうえで、公共施設の貸し出しを判断してきました。教育委員会が管理している施設は、教育委員会の「感染拡大に伴う施設利用制限の基本的な考え方」を基に、その時の市内の感染状況や近隣市町村の感染状況なども総合的に捉え、牛久市新型コロナウイルス感染症対策本部で決定しています。

地震対策について



まつだ もえか
松田 萌花さん (東洋大牛久高2年)

東洋大学附属牛久高校は、市外から来ている生徒も多いのですが、牛久市はどのような安全対策を行っていますか。また、中学校のときなどに防犯教室などが行われていたのですが、高校でもそのような活動はできますか。

答弁 災害が発生した際は、市民や市外在住の方を分け隔てなく避難者の受け入れを行います。防犯教室などの活動は、希望に応じて職員を派遣します。また、市の出前講座の制度を利用して、「防災・安全に関する講座」として申し込んでいただけます。防犯等に関して、より詳しい内容についての学習を希望するのであれば、学校から警察に直接相談することも可能です。

竜ヶ崎・牛久都市計画について



みやもと しんや
宮本 慎也さん (東洋大牛久高2年)

都市化というのは具体的にどういった部分が都市化していくのかを教えてください。また、都市化をすることによって私たちの生活に影響するのか、影響する場合どういったことが起こるのかを教えてください。

答弁 建物の高層化が進む東京都心に比べ、郊外都市では、活用できる土地が多いため、建物を高層化することなく、都市化を図ることができます。牛久市では、一軒家の需要が高いため、良好な住宅供給ができるよう、現在新たに宅地開発を検討しています。今後人口減少や高齢化が進むと、市街地の人口密度や税収の低下により、企業の撤退や将来的な若い世代の負担増が危惧されるため、牛久市ではコンパクトなまちづくりにより、多世代が暮らしやすく活気のあるまちを目指します。

コロナ感染拡大に伴う市内の小・中学校の対応について



かない おうえん
金井 旺縁さん (つくば開成高2年)

コロナ感染拡大に伴う市内の小・中学校の対応がどのようなものであったか、また、その対応の中で、不登校生徒の増加や学力差拡大などの問題はなかったか。あるとすれば、その課題の解決に向けての今後の対応策などを教えてください。

答弁 令和2年3月2日から5月20日までの約2カ月半、臨時休業となり、プリントやドリルでの学習、各家庭でのe-ラーニングを活用しました。市独自の取り組みとして、ALTによる学習動画を作成・配信し、外国語の教科書の内容に沿った学びができるようにしました。令和3年8月30日から9月25日までの臨時休業期間中は1人1台整備されたタブレット端末を活用しリモートによる学習をしました。不登校児童生徒の対応として、各学校でオンライン授業を行ったり、安心して過ごせるための居場所を用意したりしています。

市内の(通学路を含めた)小中学校のバリアフリー化について



おおがね りょうが
大金 龍河さん (つくば開成高3年)

車いすで生活している私が実感するのは、表面的なバリアフリー化は進んでいる一方で、本当の意味でのバリアフリー化が進んでいない現実です。通学路を含めた、学校のバリアフリー化の現状や課題、今後の見通し等について教えてください。

答弁 新たに整備する道路は、バリアフリー化が義務化されているので、それに対応して整備していきます。既存の道路は、今後改修する際にバリアフリーに対応するよう整備をしていきます。学校施設のバリアフリーの整備状況は、徐々に進んでいるところですが、さらに進めるうえで課題となるのは、施設の改修に多大な費用が掛かることです。今後は第1期牛久市教育振興基本計画に基づき、大規模な改修工事を実施する際、計画的に整備を進めていくよう検討していきます。

健康福祉に関する政策について



はたやま りな
畑山 里菜さん (牛久高2年)

少子高齢化の対策として、現在どのような目標を立て取り組んでいますか。今後の展開についても教えてください。また、近年注目を浴びているSDGsについて、どのようなことに取り組んでいるのかを教えてください。

答弁 うしくを背負って立つ若い世代が、将来、住みやすさ、暮らしやすさを感じられるまちづくりを目指し「牛久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を作成。現在の人口を維持することを目標とした施策を戦略に盛り込み、市を挙げて取り組んでいます。SDGs、持続可能な開発目標は、国連で17の目標、169の達成基準、232の指標を掲げ、2030年までの目標達成を目指していますが、市の事業の多くがSDGsの目標に合致した一人ひとりの持続可能な未来を築くための取り組みとなっております。

令和3年12月24日、主権者教育推進の一環として市議会議場で「令和3年度高校生議会」を開催しました。市内4つの高等学校から3人ずつ、計12人が参加し、市政に対し新鮮味あふれるさまざまな質問が投げかけられ、市長、教育長および各部長等が答弁しました。高校生議員の皆さんの質問と、答弁の概要を紹介します。

市民交流活動への市の関わりについて



さかより
酒寄 レオさん (つくば開成高3年)

牛久市ではNPO法人などの市民活動団体や市民ボランティアによる地域活動が活発に行われており、市民の交流に大きな役割を果たしているという話を聞きました。具体的な地域活動や行政との関わり、市の支援について教えてください。

答弁 市は、福祉や文化・芸術、環境保全、子育て支援など多岐にわたる活動を行うボランティアやNPO法人などの市民活動団体を、地域の人と人との繋がりをより強固なものとし、地域の活性化やまちづくりに寄与する、重要なパートナーであると認識しております。これからも、多様な人材が活躍できる環境づくりに努め、活発な地域活動が行われるための支援を行うことで、市民と行政とのパートナーシップによる市民活動を推進していきます。

市立小中学校の授業とテストのあり方について



くろさわ かなえ
黒澤 花奈江さん (牛久栄進高1年)

牛久市は教育についてとても考えてくださっている自治体だと思いますが、なぜ、小中学校で「学び合い」という形式で授業を進めているのですか。また、なぜ特定の中学校だけ定期テストがなかったのか教えてください。

答弁 これからは知識をたくさん詰め込む授業ではなく、1つの課題解決に仲間と協働し、さまざまな意見を出し合いながら学ぶ授業(アクティブ・ラーニング)が大切で、市はこの授業を「学び合い」として10年前から進めています。テストでは知識や技能の定着をみるとともに、その結果に基づき、未定着の部分を補充するために活用します。通われた中学校の先生たちは、定期テストより単元テストを行ったほうがより効果的であると判断されたのではないかと考えます。

空き校舎の活用案とGIGAスクールについて



やくわ
八鍬 あかりさん (牛久高2年)

少子化が進むにつれて、小・中・高等学校の生徒が減っていくことで、今ある校舎が余る懸念がありますが、何か対策はありますか。また、1人1台貸し出されたタブレット端末を活用した学習内容や、今後の取り組みを教えてください。

答弁 市の少子高齢化は例外ではなく、教室が不足する学校がある一方で、空き教室が目立っている学校もあります。具体的には、保育園・放課後児童クラブへ転用、学校毎の特色ある教室づくり、防災倉庫としての活用などがあります。市では令和2年11月に全児童生徒1人1台のタブレットを整備しました。今後は、児童生徒がタブレットを「文房具」として自由な発想で使いこなし、さらにレベルの高い「協働的な学びの授業」を実現していきたいと思っております。

現在における産業について



みや りりか
宮 梨々香さん (牛久高2年)

市では、環境にやさしい取り組みを多くしていることを改めて感じました。それを広くより多くの方に知ってもらえる考えなどはありますか。また、水質汚濁・土壌汚染についてどのような対策を取っていますか、教えてください。

答弁 地域循環型社会の構築と地球温暖化防止を推進するため、市はさまざまな情報を積極的に発信していく必要があります。水質汚濁対策は、事業所と公害防止協定を結び、事業所内で排出される水質の自主検査結果を定期的に報告していただき、適正管理の確認を行っています。市内河川や地下水などの公共水域は水質検査を定期的に行い、水質の保全に努めています。土壌汚染対策は不法投棄などがあった場合には、現状を確認し県担当機関や警察と連携して対応しています。

住民からの意見の集約および反映について



すわはら ともか
諏訪原 朋香さん (牛久栄進高1年)

住民からの意見の集約および反映について、私たち未成年は大人に比べ、意見を述べる手段が少ないように感じます。今回のような特別な機会を除き、私たちが意見や要望を届ける手段にはどのようなものがあるのか教えてください。

答弁 市では「市民の声が市政に生きるまちづくり」を進めています。広く市政へのご意見、ご要望、ご提案などをいただく施策として、「市長への手紙」、「市公式ホームページからのご意見の受付」、各行政区役員を対象とした市内小学校区単位での「タウンミーティング」、「行政区意見交換会」の開催、市の行政サービスに対する「市民満足度調査」などを実施しています。将来に渡って、若い世代が定着・定住し、世代が循環する魅力的なまちであり続けるために、今後も積極的にご意見、ご要望などをお聞かせください。

本を読む文化について



いけだ しゅん
池田 隼さん (東洋大牛久高1年)

沢山の知識を得たり、知識の幅を広げたりするためにも本は読むべきだと思います。牛久市では、どのような活動に取り組んでいるのか、または、教育文化としてどのような取り組みを行う予定なのかを教えてください。

答弁 家庭や地域、学校、図書館などが一体となって小中学生の読書活動を推進しています。牛久市の具体的な取り組みとして次の7点があります。「全ての小中学校に学校司書を配置」、「学校図書館ネットワークの活用」、「情報ネットワークの活用」、「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」、「ブックスタート事業」、「うちのどの推進」、「中央図書館の常設ヤングアダルトコーナー」です。今後はイベント等を通して、とりわけ、若い世代に、本への興味を持たせるとともに読む楽しさを広めていきたいと考えております。